

(1)

THE KŌHŌ NANKOKU

高知新聞

第92号

昭和42年11月1日

編集発行

南国市広報委員会

事務所

高知県南国市役所内
(電④2111)

印刷 川北印刷株式会社
(電④3151・有線 155-11)



愛の協力

市長も献血

—市民のものとなった愛の活動—

市に献血推進協会ができて2年、毎月20日を献血デーと決めての活動は、次第に市民に理解されてきているようです。

このころは同協議会に対して指定献血の依頼がくるなど、ことし献血に協力された方は330人に及び、指定献血も3回を数えています。

指定献血をした部落では、年1回の献血日を決めるなど、愛の献血運動も市民のものとなってきました。

のである。

▼しかし、一度交通事故が発生すれば器物の破損はもとより生命にまでその被害を及ぼしている。不幸にして生命を落したり一生後遺症に悩まされることのないように、お互に交通ルールを守り、生命を大切にしたいものである。

▼ところがこの数は警察がタッチした事故件数であって、これ以外に署が直接手を入れていないものは三百件ほどあるのではないかとみられている。交通事故の多くは、運転者はもとより歩行者の不注意と、不心得によって起こっている。

▼ちなみに県下警察署管内で、高知署について二番目に多い南国署におけることし一月から十一月までの事故発生件数は二百八十二件、死者十五人、けがした人二百二人を数えている。比較的事故のなかった十一月の件数は十八件で、死者、けがした人は十九人となっている。

ある。



毎日の新聞紙上で大きく取り上げられている問題に、交通事故とそれによる後遺症のことが